

スポーツ人文・応用社会科学系

氏名 すみの 隅野 みさき 美砂輝 講師



主な研究テーマ

□スポーツマネジメント、スポーツマーケティング

平成28年度の研究内容とその成果

私の研究分野はスポーツマーケティング、スポーツマネジメントです。平成28年度に行った研究のうち、ここではスポーツ観戦者に関する研究をご紹介します。

JリーグではJ1・J2のリーグ戦に会場した観戦者の動向を把握するために、スタジアム観戦者調査を2001年から毎年実施しています。この調査は全国のスポーツマネジメント分野の研究者の協力のもと、J1・J2全クラブのホームゲームで行われています。Jリーグのようなプロスポーツでは、いかに多くのお客さんにスタジアムへ足を運んでもらえるかが大きな課題となっています。そのためのプロモーションやチケット戦略などの戦略を考える上で、お客さんである観戦者のデータをリーグ全体で継続的に収集・分析することが必要不可欠となっているのです。私が担当しているのはJ2に所属しているロアッソ熊本。2008（平成20）年にJ2へ昇格してから継続して関わらせていただいています。平成28年度は9月25日に熊本県民総合運動公園陸上競技場で開催されたホームゲーム

で調査を実施しました。主な調査項目には、年齢や性別などの「観戦者のプロフィール」、「観戦行動の特徴」、「Jリーグとコミュニティ」、「スタジアム観戦の動機」が設定され、アンケートによりデータを収集しました。調査対象となった試合には4,341人のファンが来場し、来場者全体を反映するように配慮しながら421人分のデータを得ることができました。アンケートの配布・



写真1 熊本県民総合運動公園陸上競技場



写真2 スタジアム調査の様子

回収は、本学の学生・大学院生が担当しました（写真2）。

ここでは、ロアッソ熊本の調査結果をいくつかご紹介したいと思います。まず「観戦者のプロフィール」についてですが、男女の割合は男性がおよそ54.7%、女性が45.3%、平均年齢は45.6歳となりました。観戦者の居住地については、ホームクラブ応援者の96.1%がホームタウンの熊本県内という結果で、これはリーグ全体でも40クラブ中で6番目に高い値となりました（リーグ平均は86.8%）。次に「観戦行動の特徴」の項目のうち、同伴者についての結果では、ひとりで観戦する割合が20.3%と昨年の26.0%に比べて少なくなった一方、家族と一緒に観戦する割合が昨年の51.8%から57.8%と増加しました。「Jリーグとコミュニティ」の項目では、「Jクラブはホームタウンで大きな貢献をしている」ことに対し肯定的な回答をした観戦者の割合は89.0%と、ロアッソ熊本が地元でしっかりと受け入れられていることが窺えました。また「スタジアム観戦の動機」の項目でも、「地元のクラブだから」と回答された値（53.0%）がリーグ中で3番目に高いという結果が得られており、「ロアッソ熊本が地元のクラブである」という意識がスタジアム観戦という行動の重要な要因となっている可能性が示されました。

これからの研究の展望


毎年のように話題となるJリーグの観客数ですが、2016シーズンのJ2に関して

は、1試合平均で前年より101人増の6,946人となりました。一方、熊本においては前年より1,494人マイナスの5,543人で、大幅に減少してしまいました。この理由は、ご存知の通り2016年4月に起きた熊本地震です。8節から12節までの5試合は順延、13節からなんとかリーグ戦に復帰したものの、ホームスタジアムが地震の影響で使用できず、県外のスタジアムでホームゲームを実施せざるを得ない状況にありました。ホームスタジアムでゲームを開催できるようになったのは7月3日。こういった影響によって観客数自体は減少しましたが、そのなかでも熊本の復興のシンボルとして活動を続けたロアッソ熊本。クラブと熊本県民のファンとの絆は、いままで以上に強固になっているかもしれません。今後はこのような、クラブとファンの心理的な結びつきを詳細に分析するような調査研究が求められます。

最後にご紹介ですが、全クラブのデータをまとめた「Jリーグスタジアム観戦者調査2015サマリーレポート」（写真3）がJ



写真3 Jリーグスタジアム観戦者調査2016サマリーレポート



リーグ公式ウェブサイト (www.j-league.or.jp) に公開されています。興味のある方は是非ご覧いただければと思います。

※ 写真1、写真2とも過年度のもの。